

(第3種郵便物認可)

県の南西端、福岡との県境に近い日田市中津江村にある林業会社「田島山業」の後継者。今月、大分銀行が主催するビジネスコンテスト「だいきんニュービジネスプランター」で特別賞を受賞した。

脱炭素社会の実現は、今や世界的な潮流となっている。「この流れを林業と結びつけることで、ビジネスチャンスが生まれると考えた」。鍵となるのは国が認証する「J-クレジット」。

田島山業統括本部長

田島 大輔さん 34

立つようになった周辺の放置林を、クレジットの供給源としてよみがえらせる狙いもあるという。

慶応大卒業後、キャノンへ。社長の父、信太郎さんが還暦を迎えるタイミングで帰郷した。27歳だった。現場に入って改めて実感したのは林業の時間軸の長さ。「曾祖父、祖父が植えた木を自分が切り、自分が植えた木を子どもの子もたちが切る。ロマンのある仕事だと思ふ」と話す。(秋吉直美)

脱炭素 林業に収益

森林管理などのプロジェクトによって生まれた二酸化炭素(CO₂)排出量の削減分をクレジットとして売買する仕組みだ。

自社が管理する森林約1200haのうち約800haについて、クレジットの認証を申請中で、今秋にも売買ができるようになる。「うまくいけば、木を切って売るだけだった林業経営に新たな収益源が生まれる。その分を健全な森づくりに回すことができる」。近年目



両親と妻、長女の5人家族。趣味は学生時代に始めたマラソン。今は大会から遠ざかり、「山に入るのがトレーニング」と笑う。

